

經濟部 中華民國 台湾投資通信

Vol. 311
Jun 2024

頼清徳新総統就任、日本の官房長官をはじめ各界が祝意

頼清徳総統が就任、日本の林芳正官房長官が5月20日の記者会見の席上で祝意を述べるとともに日台の友情が引き続き深化することに期待を表明。

TSMC熊本工場JASMが正式に開所

台湾積体回路製造(TSMC)は2024年2月24日熊本県でウェハー製造子会社JASMの開所式を開催、日本政府、サプライヤー、顧客、ビジネスパートナー、学术界の代表者が出席。

台日経済貿易の動向

台日間の投資と事例、技術協力、産業連携。

近々の台日経済貿易活動

第7回メディカル ジャパン 東京、第32回日本国際工作機械見本市。

最近のトピック

頼清徳新総統が就任、日本の官房長官 をはじめ各界が祝意

頼清徳第16代総統と蕭美琴副総統は5月20日に就任の宣誓をし、就任演説を行いました。頼清徳総統の就任に対し、日本の林芳正官房長官は20日の記者会見で祝意を示すとともに「頼清徳総統のリーダーシップの下、日台の友好がさらに深まることを期待している」と述べました。台湾と日本は経済貿易関係ならびに人的交流が密接であり、お互いを重要なパートナーとしています。頼新総統のリーダーシップの下、台日の友好がより一層深まることを期待し、そして蔡英文前総統に敬意を表します。

また、新総統は就任当日の昼食会に「第16代正副総統就任式日本国会議員祝賀団」を招き、「日華

議員懇談会」が祝賀団を結成し就任式に出席したことに感謝しました。日本の国会議員団の新総統就任式参加は台湾にとって重大な意義があります。団長の古屋圭司会長は、今年1月に能登半島で地震が発生した際、台湾は真っ先に見舞うだけでなく、巨額の義援金を寄付してくださった、と語りました。同様に、4月に花蓮で地震が発生したとき、日本の各界は相当な関心を持ち、援助の手を差し伸べてくれました。これは、「まさかの時の友こそ真の友」であることを何よりも証明しています。

TSMC熊本工場JASMが正式に開所

台湾積体回路製造株式会社(TSMC)は、今年2月24日に熊本県で、台日両国の政府、サプライヤー、顧客、ビジネスパートナー、学术界の代表者を招いてウェハー製造子会社Japan Advanced Semiconductor Manufacturing(JASM)株式会社の開所式を挙行政TSMCに対する各界の支援と努力に感謝するとともに、このプロジェクトの加速と順調な履行を共同して成し遂げる旨を表明しました。

JASMの開設は多くの重要なマイルストーンを生み出しました。JASMは、TSMCが日本企業と初めて行った合弁事業であり、また最初の日本工場でもあり、そして近年のグローバルな布石における初の海外ウェハー工場です。JASMは2021年に設立され、2022年4月に建設開始、2024年末に量産を始める予定です。TSMCとJASM株主のソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社、株式会社デン

ソー、トヨタ自動車株式会社も最近、ウェハー第二工場建設への投資を発表しており、2024年末着工、2027年末操業開始の運びです。

将来的には、これら2工場によりJASM熊本ウェハー工場の月産総生産能力は12インチウェハー10万枚を超えます。自動車、産業、民生およびハイパフォーマンスコンピューティング(HPC:高性能計算)関連のアプリケーションとして40ナノ、22/28ナノ、12/16ナノ、6/7ナノ各プロセス用を提供する予定です。

TSMCのグリーン製造へのコミットメントに沿い、100%再生可能エネルギーの使用、工場の使用必要量を超える地下水を補充すること、現地でのサプライチェーンの構築を含め、JASMは厳格にして持続可能な発展政策を講じようとしています。

台日經濟貿易の動向

台日双方の投資概況と事例

台湾と日本の二国間投資に関して、経済省投資審議委員会の資料によりますと、過去から2024年5月までに日本企業が行った対台湾投資は合計11,978件、総額266億8,000万米ドルに上り、日本は対台湾投資第4位の国です。主要な投資分野は、集積回路、半導体製造設備、ウェハーや電子工業で、このことは日本企業が台湾市場と台湾産業と産業チェーンが擁する優位性を相当重視していることを明示しています。一方、台湾の対日投資は、これまで997件、累計投資金額は121億4,000万米ドルです。主な投資分野は集積回路、半導体パッケージングおよびテストングで、これは主として台湾の半導体企業が継続的に投資し、日本のサプライチェーンとのつながりを強めているからです。近年、世界の経済貿易には多くの不確かな課題があります。台湾は戦略的産業において重要な地位を占めており、くわえて、半導体の先進的な製造工程技術では世界をリードしています。現在、台湾政府は5つの信頼(半導体、人工知能、軍需産業、安全管理、通信)とヘルスケアを推進しており、これらの産業分野では日本と台湾は緊密な関係を有するだけでなく、ともに優位性を持っています。長期にわたる協力という切り離せない基礎がありますので、AI市場が有するチャンスをさらに掌握することができるでしょう。

日本企業による対台湾投資の事例ですが、台日企業は相互補完性が高いうえ、地理的な優位性もあることから、台湾市場のニーズに応じるべく台湾への投資を増やし続けようとしています。

TSMCが高雄に進出、工場を建設して以来、半導体パッケージ材料企業の投資が増加しています。その分野で世界最大のシェアを持つ台湾住友ベークライト株式会社は8億台湾ドルを投資して、高雄市大發工業区に工場を増設、今年3月に新工場は落成しました。日本の親会社の技術支援の下、長春(CCP)グループや長華電材(CWE)など地元高雄の石油化学産業が擁する能力とマッチして、高雄の石油化学産業の高価値化への変革を加速することができるとでしょう。台湾住友ベークライトは1999年から高雄で事業を営んでおり、今年で25年になります。パッケージング・テストング材料を生産する台湾唯一の大企業であり、この分野で世界シェア1位の座を占めています。新工場の完成により供給能力が引き上げられ、台湾半導体市場における台湾での生産と消費力が一段と強化されることとでしょう。

世界トップ3に入る半導体設備メーカーである株式会社日立ハイテックは、昨年(2023年)に新竹県竹北市で半導体先端技術開発センターの開所式を行いました。2ナノ以下の製造設備の研究開発により邁進し、カスタマイズされた技術の強化、主要コンポーネントの台湾での生産を実行に移します。続いて、本年(2024年)5月に財団法人工業技術研究院および株式会社日立製作所と材料情報連携プラットフォームを立ち上げました。国際連携を通じて材料研究開発プラットフォームの統合とAI技術の導入を進め、将来的には実験回数を減少させると同時に材料開発を加速させ、材料分野で新たな局面を開拓することができるでしょう。

台日技術協力

ネットゼロ炭素排出というグローバルな趨勢の下、水素エネルギー関連の応用開発はすでに世界中でホットな話題になっています。近年、台湾政府は産業用水素エネルギーや交通機関用水素エネルギー関係の開発に対する投資を計画、これを受けて関連するメーカーは水素エネルギーに関係する応用開発に積極的に投資するようになりました。経済省の指導の下、財団法人金属工業研究開発センター(MIRDC)、元翎精密工業株式会社(MOSA)、公益財団法人水素エネルギー製品研究試験センタ

ー(HyTReC)は今年2月に「台日水素エネルギー応用開発協力調印式」記者会見を行い、4年を期限とする技術協力の基本合意書に共同署名しました。今後、三者は連携して水素エネルギー移動車両用貯蔵部品(バルブ、シリンダー)の共同開発や検査測定技術の開発を推進、関連する技術の相談、研究、開発、訓練の交流や協力を行っていきます。これは、台湾と日本の水素エネルギー産業の発展を加速させる重要な一歩です。

台日産業協力の発展

台日産業技術交流プラットフォームを拡大するため、「台日産業技術協力促進会(TJCIT)」は、今年2月27日に「一般社団法人熊本県工業連合会(熊本県工連)」と協力了解覚書に署名、台日企業間の技術・人材交流をさらに広げていきます。近年、熊本県は日本政府が建設するシリコンアイランド九州の中心地と見なされており、TSMCの熊本工場始動に伴い、各界は熊本県が半導体分野でより重要な役割を果たすことを期待しています。台湾にとって日

本は常に技術と投資を提供してくれる最も重要な国ですが、台湾の産業技術力が向上するにつれ、両国間の産業補完性が日を追って顕著になってきています。TJCITと熊本県工連が合意した今回の協力が、台日産業のさらなる成長と発展の触媒となって、両国産業は優位性を相互に補うことで基礎力を強化し、包括的な経済パートナーシップを構築するでしょう。

インフォメーション・コーナー

第7回 メディカル ジャパン 東京(医療・介護・薬局Week東京)

開催期間:2024年10月9日(水)~10月11日(金)

開催場所:幕張メッセ1~3ホール(千葉市)

活動内容:日本最大規模の医療総合展です。2023年は18の国と地域から計591社のメーカーが参加し、16,000名を超えるプロのバイヤーが来場、日本の医療材料市場を発展させる重要なプラットフォームとなっています。専門的な医療材料は高度な手術と画像解析を主とし、ホームケアは主に高齢者、リハビリテーションとヘルスケア、福祉機器に焦点を合わせています。同時に、日本の出展者の多くは地元の有名企業であり、台湾企業の提携対象にもなっています。

参加募集:経済省国際貿易署

財団法人中華民国対外貿易発展協会

活動情報:<https://events.taiwantrade.com/page/EBS/2024MedicalJapan>

第32回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2024)

開催時間:2024年11月5日(火)~11月10日(日)

開催場所:2024年11月5日(火)~11月10日(日)

活動内容:世界三大工作機械展示会の1つで、日本の工作機械メーカーが最新の加工技術や新製品を展示する主要舞台です。長年にわたり、台湾の機械メーカーと日本のバイヤーは長期的な協力関係を築いており、技術、サプライチェーンの補完性は高いです。デジタルトランスフォーメーションとスマートマニュファクチャリングは、すでに世界のメーカーにとって避けられない趨勢となっています。先進的な製造技術と自動化された機械設備における日本の成長ニーズを把握し、国際交流と協力を加速し、国際市場を開拓するという目標に到達します。

参加募集:経済省国際貿易署

財団法人中華民国対外貿易発展協会

活動情報:<https://events.taiwantrade.com/page/EBS/JIMTOF2024>

投資相談窓口

投資台湾事務所

台北市中正区襄陽路1号8F

+886-2-2311-2031

經濟部投資促進司

台北市中正区愛国東路82号3F

+886-2-2389-2111(内線:214)

担当:黄雅綾

InvesTaiwan:

